

### 1 新聞活用のねらい

日本には未解決の領土問題が3地域存在している。領土問題は、公民的分野で取り扱う内容ではあるが、それぞれの問題には歴史的要因が必然的に存在する。現代史の中で取り扱う場合、歴史的な経過を学ばせると同時に、現在の動き（状況）もつかませたい。特に、日本と近隣諸国との関係を学習するにあたって、戦後処理の上でも欠かせない課題の1つであり、近い将来、何らかの動きが見られる可能性もある。普段から新聞に目を通す中で、現在の両国の状況（政治的な動向や住民の変化）をつかめるようにしたい。

### 2 授業展開

#### 1 ねらい

- 関心意欲▶ 新聞記事を活用することで、近くて遠い国ロシアについて、関心を持たせるとともに、北方領土問題に対する関心を高めさせる。
- 思考判断▶ 新聞記事から、両国政府の考え方の相違や現地の人々の考えや現状を把握させる。
- 知識理解▶ 北方領土問題が生まれた歴史を学びながら、未解決のまま戦後半世紀過ぎてしまった現在までの状況を理解させる。

#### 2 主な学習活動

- ①新聞記事を読み取り、内容をつかむ（要点をまとめる）。
- ②地図の中で、北方領土の位置を確かめる。
- ③日本政府とロシア政府の考えや地元の住民（北海道、北方領土の島民）の考えを整理する。
- ④日本とロシアとの平和条約が、なぜまだ結ばれていないのか（領土問題がなぜ解決できないでいるのか）を考え、現在、どのように進展していこうとしているのかを新聞記事から読み取る。

### 展開例『北方四島北側に国境線』 (設問例) 学習内容と設問例

資料▶ 1 | 2 | 3 | 4 | 5

- 『北方領土』を確かめる。  
「北方領土とは、どこのことですか。いつ、どのように北方領土問題は起こりましたか」（資料2などで確かめる）
- ロシア大統領の提案と日本の首相の提案の趣旨をつかむ。  
「ロシアの大統領は、どういう提案をしましたか」（条約の名称を『平和友好協力条約』にするという提案）  
「それに対して、日本の首相はどうしましたか」（理解を示し、さらに条約に国境線を引くことを盛り込むように提案した）  
「日本の首相の提案の理由はどういうことですか」（ロシア国内の反対が強まることを避けて、北方領土に対する日本の主権を確認しようとしている）  
「日本の首相の提案に対して、ロシアの大統領はどのように応じましたか」（提案に沿った解決は可能であるという考えを示した）
- 領土問題に関する日ソ、日ロの首脳会談の歴史的な流れをつかむ。  
「『東京宣言』とは、どのような内容ですか」  
「今までの主な日ソ、日ロの首脳会談の様子を整理しよう」（記事や資料を読み取る）
- 今後の様子を簡単に把握する。

### 3 評価の観点

- 関心意欲▶ 北方領土問題について、関心を高めることができたか。
- 思考判断▶ 北方領土の位置をつかみ、両国の政府や人々の考えをまとめられたか。
- 知識理解▶ 北方領土問題に関する現在の状況を理解できたか。





4 発展・応用例

中学生でも理解できる部分の内容把握だけで十分だが、資料1の記事には、さらに「ロシア側の思惑（領土問題を先送りして平和条約を締結を優先させるといふ真意）」が述べられている部分もある。生徒に理解できる範囲で取り上げ、生徒自身はどう思うか考えを深めさせたい。

資料3の記事は、「ロシア公共テレビの日本の現状ルポ」について説明している。ロシア側の新しい動きである。北方領土のロシア住民の様子や考え、日本の旧島民の考えも紹介しながら思考、判断させていきたい。

北方領土問題は、前項の「応用例」のように、社会科のどの分野にも関わる内容である。普段から最新の記事を切り抜いておいて活用したいものである。

5 ニュースを追いかけよう

1つのテーマに絞って、新聞記事をスクラップし、その出来事の移り変わりを追うことも意義がある。事情の変化だけではなく、記事としての取り扱い方の相違や流れなどを読み取って、大局的に把握できる目を養いたい。

北方領土に関する事柄は、常にロシア外交の話題とともに必ず新聞紙面で取り扱われる。社会情勢の変化とも照らし合わせて、今後の動きをつかませたいものである。

1998年4月20日から5か月の間に、日本では橋本政権が退陣し首相が交代した。ロシア国内でも、首相が交代し、経済面でも大混乱した。平和条約締結交渉にも影響したようである。11月の小淵首相訪口により、モスクワ宣言が発表されたが、領土問題についてはさほどの進展は見られなかった。

2000年までに平和条約締結を目指すという両政府の今後の推移に関心を持たせたい。

資料5 朝日新聞 1998・11・14付朝刊



アレクセイ・ザゴルスキー氏  
世界経済国際関係研究所主任研究員

ロシアは立場変えず

今回の日ロ首脳会議で、前進はなかった。実際は、春の川奈会議で問題が「領土」に絞られた時感、すでに行き詰まっていた。昨年のクラスノヤルスク会議では、エリツィン大統領とロシア外務省の姿勢に食い違いがあったように、大統領は結局、外務省の「共同経済活動に重点を置く」という意見を取り入



ウラジーミル・ミャスニコフ氏  
ロシア科学アカデミー極東研究所副所長

領土と経済開発は別

現在のロシアのように、さまざまな意味で劣等感を抱いている側が譲歩することはできない。その意味で、今回の日ロ首脳会議は、イワノフ外相が言ったように「双方の利益が損なわれない形で」成果を出し、成功だったと評価できる。ロシアは「両国の間に争いのある領土はない」とい

資料6 朝日新聞 1998・9・18付夕刊

首相訪口時に回答再確認

領土提案 大統領、橋本前首相に

【モスクワ17日】中村ぐり橋本氏が大統領に示した「ロシアを訪問中の橋本」た「国境線画定」を軸とする平和条約締結に向けた新の両日、エリツィン大統領と日ロ平和条約問題などについて意見交換した。エリツィン大統領はこのなかで、今年四月の日ロ首脳会議の際、北方領土問題をめぐり橋本氏が「大統領に示した。橋本氏が十七日夕（日本時間十七日深夜）、記者団に明らかにした。